



おおらかに たくましく ひかりかがやく岩中生 ～日山のごとく、大杉のごとくあれ～

岩代中のよさについて考える

すいしろたき
わたしは すいしろをたきました。
わいたのじつちん
へっさんしよし
と、いいました。
じつちは へりました。
わたしは
なじょうか
と いいました。……祖父への気がかりを感じよう。

いとこ
じつちは
「いやんべ」……祖父や孫にたいする愛情が感じられる

わたしはいかふたとおもいました。

昭和三十一年頃は、農家の子たちは学校から帰ると田畑に出ていて、両親が帰るまでに風呂たき、ごはん炊きなどしたものです。この作文の中には祖父とうやまう気持ちや自分からの仕事への喜びが溢れています。方言たっぷりのとこりがまたあたにかい感じがします。

岩代中校歌の作詞者である金田和枝さんとの出会いは、私が10年前に教諭として岩代中に勤務した際の『郷土学習』でした。金田さんを講師として招きし、地元に伝わる民話や伝説について、調べ学習を行いました。

金田さんは、ご自身が編んだ絵本や収集した民話を子どもたちに読み聞かせをしてくださいました。優しい人柄と素朴な語り口で、物語の世界に引き込まれる子どもたちの輝く目が私の記憶に残っています。当時、金田さんは70歳を越えていたと思います。「今度、ピアノの発表会があるんです」と明るく話していた姿を思い出します。「すいしろたき」の原稿は、金田さん自身が昭和36年頃に、岩代地区の小学校に勤務した際の担任をした子どもの作文です。「よかったらどうぞ」と金田さんから見せていただきました。時代は「昭和」から「平成」「令和」と変わっても、いつまでも大切にしたいものがこの作文に秘められているような気がします。その金田さんの訃報を風の便りに耳にし、しみじみと在りし日の姿を思い返しています。

「(私たち先に生まれた者が) 残したものを大切にしていってくださいね」という声が聞こえてくるような気がします。

岩代中生の「素直さ」を「強み」に

教諭として勤務した10年前に感じた、岩代中生の代名詞とも言える「素直さ」に再会し、懐かしい我が家に帰ってきたような気持ちで4月のスタートを切りました。

「素直さ」を別のことばで表現するならば「素朴」「純朴」「純粹」「純真」などのことばが浮かびます。

この10年の間に、『震災』、『新型コロナウイルス感染症』『IT化』…など、社会状況が大きく変化がしても、岩代の子どもたちの「よさ」が変わらないのは、地域の「よさ」が保たれているからではないかと考えています。

「素直な子は伸びる」と言われます。そして、岩代中生の「のびしろ」に大きな期待を持っています。

「素直さ」という資質を「強み」に変換するためには、学校と家庭、地域の「チームワーク」が不可欠です。「素直さ」という「種」に、「土」と「光」と「水」が適切に与えられなければ芽は出ません。学校と家庭、地域が一体となって、子どもたちに「土・光・水」なる働きかけをし、芽を出させ、花を咲かせたいと、岩代の子どもたちとの出会いの中で感じています。

前期学級・専門委員会の役員任命



4月20日(水)に、前期学級・専門委員会の任命式を行いました。(感染対策のため、校長室からリモート配信)校長室に集まった各学級、各専門委員会の代表生徒のひきしまった表情から、全体のために力を発揮しようとする意思を感じました。自分の力を他の人のために発揮することによって、自分と集団の両方が成長していくことを心から期待しています。

任命式終了後、リモートのままで全校集会を行い、次のように話しました。

「この学校を安全で居心地のよい場所にするために、『想像力』を働かせてほしい。

『これから起こるかもしれないことについて考えること』、『今、目の前にいない人のことを考えること』、『行動に対する結果を想定すること』…。あらゆる状況と可能性を想像し、最善を選択すること。これが想像力を働かせることの本当の意味です。

新型コロナウイルス感染症、地震や火災、様々な事故から自分や大切な人を守る。さらには、互いに尊重し合える関係を築いていくために、あらゆる場面において「想像力」を発揮し磨いてほしいと思います。」

(感染拡大防止のため、リモート開催などの変更が続いています。状況に応じて柔軟に対応し、工夫を凝らして目的を達成しようとする先生方、生徒の皆さんの姿勢に頼もしさを感じます。)

中学校生活の様子を岩代中学校のホームページで紹介して参ります。
ぜひご覧いただき、ご家族で学校のことを話題にいただけたら幸いです。
また、感染症対策等による学校行事の変更など、緊急時の連絡手段としても活用いたします。



岩代中ホームページ